

横手市ヤングケアラー実態調査 調査結果の概要

調査の目的・対象者・方法・回答率

■調査目的
ヤングケアラー（本来大人が担うと想定されている家事や家族への世話などを日常的に行っている18歳未満の子ども）の実態を正確に把握し、必要な支援につなげる対応策に取り組むことを目的とする。

■調査主体
横手市市民福祉部子育て支援課、教育委員会

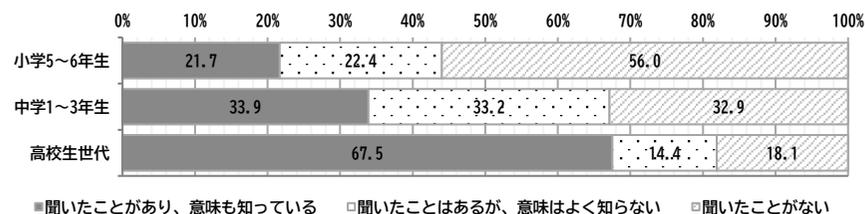
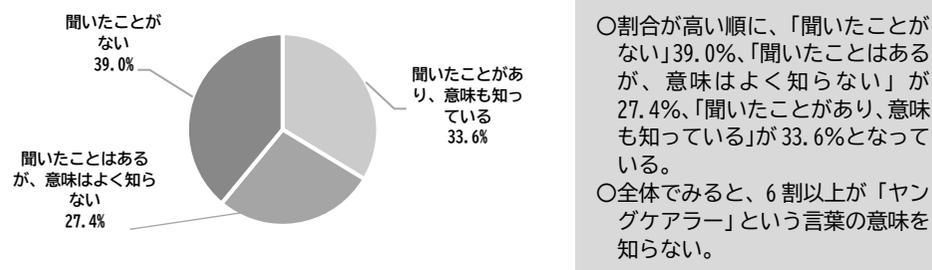
■調査期間
・小学生、中学生 令和6年7月22日～9月末日（追跡調査10月末日まで）
・高校生世代 令和6年8月22日～9月末日

■調査対象者・調査方法・回収率等

対象者	調査方法	配布数	回答数	回答率
①市内小学校に在籍している小学5～6年生	学校において学習用タブレット端末で回答	1,129	1,029	91.1%
②市内中学校に在籍している中学生（含む県立横手清陵中）		1,911	1,693	88.6%
③高校生世代	郵送依頼 オンライン回答	2,039	348	17.1%

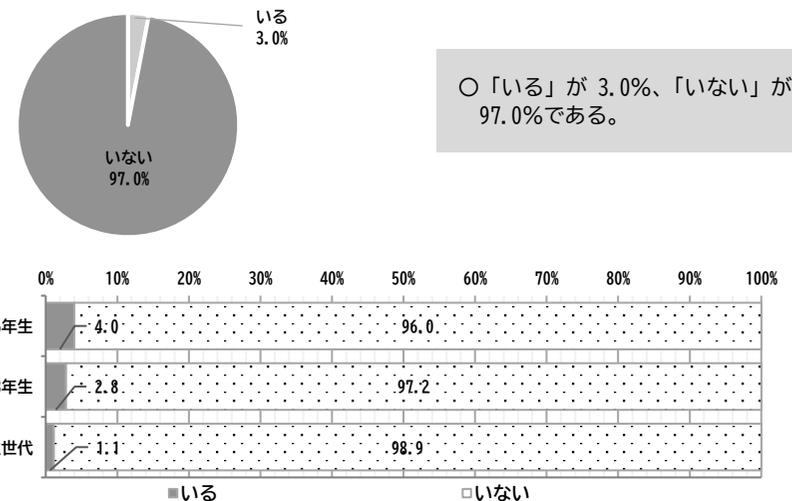
基本調査結果

■ヤングケアラーの認知度



○「聞いたことがあり、意味も知っている」と回答した人が、小学5～6年生では21.7%、中学1～3年生では33.9%、高校生世代では67.5%となり、学年が上がるにしたがって認知度が高くなっている。
○「聞いたことはあるが、意味はよく知らない」又は「聞いたことがない」と回答した人は、小学5～6年生では78.4%、中学1～3年生では66.1%、高校生世代では32.5%である。

■世話をしている家族の有無



○年代が高くなるにつれて、世話をしている割合が低くなっている。
○大人の代わりに家族の世話をしていると回答した人は、小学5～6年生では4.0%、中学1～3年生では2.8%、高校生世代では1.1%となっている。

追跡調査結果

■調査対象者
調査回答中、『大人の代わりにお世話をしている家族がいる』と回答した児童生徒に対し、各小中学校において追跡調査を実施した。高校生世代については、追跡調査未実施。

■追跡調査の結果

対象者	対象者数	追跡調査実施数	ヤングケアラー該当者数
①市内小学校に在籍している小学5～6年生	42	42	0
②市内中学校に在籍している中学生（含む県立横手清陵中）	48	48	0

「お手伝い」の範疇で行っているケースが多く、学校生活や交友関係、部活動等の日常生活に影響が出ている児童生徒は、今回の調査では確認されなかった。
しかしながら、些細な家庭の状況変化によって、ヤングケアラーとなり得る事例もあったため、今後の生活状況について学校側とも連絡を取り合い、注視していくこととしたい。

今後について

・ヤングケアラーの存在や課題について、地域社会全体で認識を高めるための啓発活動を引き続き推進するとともに、令和7年度に設置することも家庭センターにおいて、実態把握の継続と相談窓口の設置を進める。
・教育委員会や各学校と連携し、早期に問題を注視できる体制を強化する。